

江戸図屏風 江戸城本丸御殿とその近郊 (川越・三芳野・鴻巣御殿)



江戸城「江戸図屏風」国立歴史民俗博物館所蔵 (小澤弘・丸山伸彦編『図説江戸図屏風をよむ』より転載)

詳細に描かれた

「江戸図屏風」

—何の目的で誰が、いつ、描いたのか—

江戸図屏風は寛永期の城郭都市・江戸とその近郊(川越城・三芳野・鴻巣御殿)を描写した鳥瞰図です。この景観年代は寛永末年から1657年明暦の大火による江戸城焼失以前の時期と推定されており、描写内容から観るとは寛永19年までを含んでいるといわれています。3代家光の寛永期の天下普請が完成に向かう時期であり、銅葺きや瓦葺きの本丸御殿に二丸、三丸・桧皮葺きや柿葺きの西丸御殿、北丸御殿、吹上には御三家の屋敷が立ち並び、木々に囲まれた紅葉山東照宮等を中心に各種の倉や城への出入り口の門と枳形等が数多く描かれ、20の櫓、内濠、外濠に囲まれ、大手門等の見附を設け江戸城は大城郭となっています。1632年、堆に外濠が完成し、1637年寛永度の金の鯨を頂いた銅葺き5層の天守が完成しています。江戸図屏風には、武家屋敷や町人地に5000人ほどの人物が描写されています。

(2023年9月30日 謎の多い江戸図屏風 セミナーから抜粋)

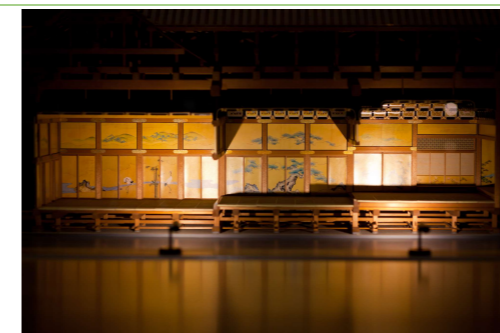
11月29日以降YouTubeで配信予定
詳細はホームページをご覧ください。



「江戸東京博物館所蔵」江戸城本丸松の廊下



「江戸東京博物館所蔵」江戸城本丸_大広間の断面



「江戸東京博物館所蔵」江戸城本丸_大広間の断面2



監修・執筆 平井聖 小粥裕子